

テックドクターによる現地診断

おおいた さ い き なお かわ
(大分県佐伯市直川)

- ・令和4年度に被災した復旧工事箇所の評価や対策工の妥当性、緊急性等について、テックドクターに現地診断をしていただき、意見を伺った。
- ・開催日：令和6年3月7日
- ・参加者：TEC-Doctor(大分大学 鶴成教授、大分工業高等専門学校 工藤准教授)、佐伯河川国道事務所、竹田維持出張所

● テックドクターによる現地診断・検討会



【TEC-Doctorの見解】

〈対策工について〉

- ・動的コーン貫入試験結果より、Nd値の高い岩盤部まで鉄筋挿入工を計画しているため、問題ないとする。
- ・調査地には崖錐堆積物が0.5～1m程度の層厚で分布しており、法枠工による対策を行う場合、法枠背面に地表水が侵入しないよう、適切な排水処理を行うことが肝要である。
- ・斜面下部に堆積した崩壊土砂は不安定な状況を呈しているため、除去する必要がある。

〈その他〉

- ・今回被災した箇所の終点側にも古い崩壊箇所が認められ、崩壊土砂が斜面中腹に堆積している。今後、崩壊土砂が二次的に国道に流出するおそれがあることから、対策の実施を検討することが望ましい。